

令和予想～日韓関係から見る日本の文化～

F8 班

宮城県仙台第三高等学校

天皇陛下が即位されて日本の元号が変わり、国内では新しい時代とされるようになった。近年、日本では韓国ブームなどによる外国文化の相次ぐ流入により、日本の伝統文化が衰退してきている。このほかにも、韓国との外交問題なども多々あることからその影響力の強さを感じ、令和がどのような時代になるのかを日韓関係から予想することにした。調査を行うと、日本は韓国の文化を評価しており、韓国は日本の性格や技術を評価していることが分かった。また両国ともに、歴史問題が政治的にも民間にも深く根付いている。しかも韓国占領期についての教育は双方行っているが、それ以前に続いた200年以上にわたる友好期についてはあまり触れていないということもあった。以上から日韓関係の悪化は政治面のほか、民間へも確実に広がっているということがわかる。そして、令和時代は政治的対立はありつつも様々な文化が混ざりあった「令和文化」と呼べるものが生まれると予想した。

1 背景

2000年代の世界は科学技術の向上により、現実世界、電脳世界の双方で距離が急速に縮まった。それにより、外国文化の日本への流入が一気に増加した。それに対して、日本の伝統文化の衰退や、日韓関係の悪化などの問題が依然としてある。このことから現在の日韓関係と日本と韓国の文化に着目し令和時代がどのような時代になるのかを予想しようと考えた。

2 材料と方法

まずGoogleフォームで韓国の印象と日韓の文化についてのアンケートを作成、実施した。続いてインターネットで日韓両国民を対象に行われた、日韓関係についてのアンケート結果を検索し、利用した。

3 結果と考察

結果は次のようになった。対象は18歳以上の男女約1,000人である。また日本国民・韓国国民双方に取った。なお、この結果における対象者はすべてにおいて同様である。

【相手国に対する印象（7年経年変化）】

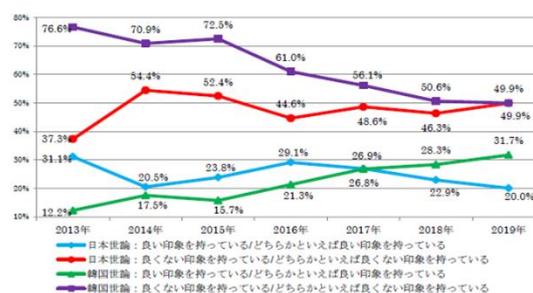


図1 相手国に対する印象（7年経年変化）



図2 相手国の好印象の理由

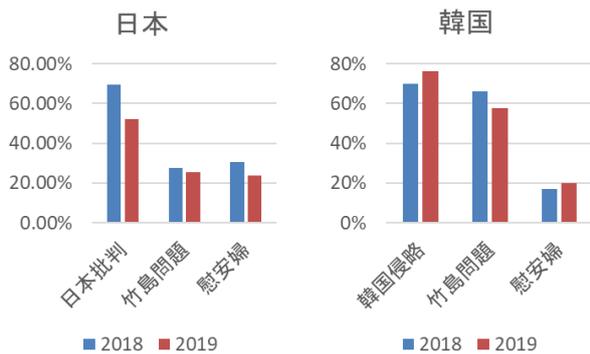


図3 相手国の悪印象の理由

図1のグラフより、韓国人が日本人に対して悪印象を持っている割合は年々減っている。それに対して日本人は韓国人に対しての悪印象の割合はここ数年変化していない。

図2のグラフより、日本人は韓国の文化を高く評価しており、韓国人は日本人の性格や技術を評価している。

図3のグラフより、両国とも悪印象の理由として、歴史的背景が関係している。しかし、韓国のほうが圧倒的に歴史問題に関しての執着があることが読み取れる。

また、調査を進めていて両国の間に歴史についての教育の差があることが判明した。日本では韓国占領期について深く教えるということはないが、韓国はかなり力を入れている。占領期以前に200年以上続いていた友好期があったにもかかわらず、このことについては両国ともあまり教えていないということも分かった。

これらの情報をもとに考察を進めた。

日韓関係の悪化は、国民の中にも確実に広がってきている。されど、互いの文化・技術については互いに認めている。

また韓国占領期についての教育の偏りが両国ともに極端であることと、長期に及ぶ友好期

についての教育が足りないことが、国民間での相手国への悪印象化を生んだと考えられる。

政治的・歴史的な国同士の対立はこれからも続いていこう。しかし、民間においては大衆文化同士が会って混ざり合い、次第に互いの国々を国民たちは認め合っていくのではないだろうか。さらには日本文化の発展を円滑にするために、日韓関係の改善が必要不可欠であり両国民家の教育の偏りを少なくしていくことも大切だ。

この情報化社会が成長していく中で、インターネットによる外国の文化の流入は続いていくことだろう。しかしその流れの中でも、外国文化と日本の伝統文化やサブカルチャーが出会い、混ざり合った文化が生まれてくる。それこそが新時代の文化。「令和文化」とすると予想した。

【参考文献】

<http://www.genron-npo.net/world/archives/7250.html> 特定非営利法人言論NPO 閲覧日 20. 6. 29.